

D 2 6 3 0 郡上長良川ロータリークラブ

2025.7~2026.6 会長：佐藤備子 副会長：大村太郎 幹事：清水英志

よいことのために

手を取りあおう

RI会長メッセージ

第48期クラブメッセージ

「輪と和」 輪を広げよう 和やかに

例会日：毎週水曜日 18:30~ (6~9月末 19:00~)

例会場及び事務所：白鳥町農業指導研修センター 2F

TEL : 0575-82-3822 FAX : 0575-82-5191

E-mail : gsrc@abelia.ocn.ne.jp

発行：クラブ会報委員会

第2219回 令和7年12月17日(水)

本日の行事

年次総会

2025-26年度

佐藤備子会長

幹事報告

清水英志幹事

* ガバナー事務所より

・2025年度手続き要覧ダウンロードの案内

・下半期分担金のお願い

・ハイライトよねやま 309号

* 関中央RCより IM 収支報告書 拝受

* 中濃駅伝競走大会事務局より 協賛金のお願い（毎年1万円）

* 大和小学校より 創作オペレッタ協賛のお礼状

* 比国育英会バギオ基金より 2024 猿渡事業報告書と基金への寄付のお願い

第2218例会報告

■会長挨拶

2025-26年度 佐藤備子会長

本日は羽部様、ようこそお越しくださいました。羽部さんは保護司としてご活動されているとのこと、心より敬意を表します。

先日、ロータリーDEIセミナー（多様性や公平性を尊重し誰もが受け入れられる社会の実現）のパネルディスカッションで、岐阜加納RCの道家さん、多治見リバーサイドRCの箕浦さんも保護司として登壇されました。「地域社会に奉仕したい気持ちがあるからこそできる仕事で、ロータリアンでなければ引き受けていなかった」とおっしゃっていました。保護司は無報酬。まさにロータリーでいう「超我の奉仕」そのものです。ご苦労も多いと思います。本日お話を伺えることを楽しみにしています。

さて、先週の忘年会のチャリティーでは、家で作った“ヘチマのたわし”をおまけにつけたところ、良ちゃんが落札してくださいました。ありがとうございます。私は、生ゴミの堆肥化に一生懸命取り組んでいます。エコな生活に興味があります。そんな中で、「小学校の頃、ヘチマを育てたなー」とふと思い、ヘチマたわしは使い終わったらそのままコンポストに入れられる。これは最高にエコだ！と思い、急に育てたくなりました。

まずは種を探したのですが、ホームセンターには売っておらず探していたところ、お客様の中に、アマゴ釣りの虫とりにヘチマを使うため育てていた方がいて、ありがたいことに種を分けてもらいました。今年、母にも協力してもらって、緑のカーテンとして育てたところ、プランター栽培ながら10個ほど立派に実りました。茶色く熟したものを水につけておくと、つるっと皮がむけ、種が取れて、そのままあの懐かしい“ヘチマ”になります。乾かして、早速食器洗いに使ってみました。

市販のスポンジほど泡立ちはよくないですが、マイクロプラスチックを流さずに済むと思うと、とても気分がよく、エコを実感できます。「～もへちまもない」という言葉ではつまらない物の例えのように使われますが、実際はたわしになり、着物の帯枕にもなり、ランプシェードにもなり、化粧水もできます。昔ながらの生活道具として、本当に優れものです。たくさんの使い道があり、今一度見直す価値のある素材だと思っています。

調べてみるとヘチマの花言葉は「悠々自適」というを知って、とても嬉しい気持ちになりました。

世間に振り回されず、他人と比べず、他人の反応に惑わされず、自分らしく心地よく生きる。

もし、そういう感覚を持つ人が増えれば、DEIの考えにもつながり、LGBTQをはじめ多様な人がもっと生きやすくなるのではないかと思いました。ヘチマな生活を心がけたいと思います。

本日の書は「年々好日日好」。 年々是好日 日々是好日 を略した言葉

特別なことがなくても、その日を大切に生きれば“好日”になる。前向きな言葉です。

花は、紅葉と菊です。

■外来卓話「ともに生きる」

臨床宗教師 羽部玲子様

初めてお伺いさせていただきます。紹介いただきました、美並出身、在住の羽部と言います。私は、真宗大谷派というお東の僧侶でございます。そういうご縁もございまして、旭様から卓話のご依頼を受けまして、良いご縁を頂いたなと思って今日はこちらの方お伺いさせていただきました。

ロータリークラブさんの名前は伺っておりますが、社会的貢献をされている団体様だということぐらいしか分からなかったので、資料を読ませていただきました。ロータリーのビジョンという声明のところに、このようなことが書かれておりました。



「私たちは、世界で、地域全体で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています」と書いてありました。最後のところの、人と人が手を取り合って行動、このことは私たちのこの社会において、欠くことのできないことと、人と人がこう生き合っていく中では最も大切なことではないかと私も思います。

私達人間は大昔より助け合って生きてまいりました。縄文時代、縄文時代のその頃の狩りというのは、助け合って力を合わせて狩りを行い、食料を得て、それをみんなで分け合って生活をしてきた、人は助け合いながら生きてきたからこそ、今、人はこのように繁栄しているという風にある学者がおっしゃってみました。白川郷には結という、皆で支え合い力を合わさる伝統的な相互扶助の慣習がございます。この慣習は福井の大野市、秋田の横手市、沖縄の結丸って言うんですが、まだ残ってるそうです。

昔は2代とか3代とか、大きな家族構成で同居という事が普通の社会がありました。今はそういう家庭がどんどん減っております。私の家の周りを見ても、若い方は都心部の方に出られて、住居を構えられる。こちらの方は高齢者のみの世代になり、夫婦、中には1人とかが増えていっており、地域のコミュニティ力ga弱体化しております。11月の終わりに岐阜市の岐阜駅の南側の少し西の所の地域の人が、こんな話をしていました。

「うちの地区、神社の新嘗祭があったんですけども、運営が大変困難になってきている。後を継いでやつてくれる人がいなくなっている。25年、30年ぐらい前は地区の人口が今の倍だった。この25年、30年で人口が半分以下になってしまっている」と、岐阜の人たちが言っていました。

名古屋駅の裏側の西側に住んでらっしゃる方も、人が減ってきてているという風に話をされました。私たちの住む田舎だけではなくて、岐阜駅や名古屋駅周辺でもそういうことが起きているということを感じ取ることができました。

昔のように家族構成が多いと、心の中に不安や心配、悲しみや辛さを抱えても、家族がお互いに気持ちを分かち合うことができる状況でした。

地域では畠で働いてらっしゃる人と話したり、どこかのおうちの縁側で一緒に談笑するというそういう光景が見られました、話し合う中で、悩み事や愚痴やら不満な気持ちが少しずつ楽になったけれども、今は地域の方との交流というのも少なくなっています。

私は日本臨床宗教師会というところに席を置いて、心の支援活動に携わっております。この臨床宗教師ということをお耳にされる方は多くないかと思います。事務局が東北大学の中にはあります。理事役員等は、全国の大学の教授の方々がほとんど場を占めて運営してくださいます。2011年の東日本大震災の時に、僧侶たちが海に向かって手を合わせ、読経をするという姿をご覧になられた方もいるかもしれません。臨床宗教師というのはキリスト教、禅宗、真言も日蓮も浄土真宗、色んな宗教者たちが集まって、心の支援活動というものを行っております。心に悲しみや辛さ、不安や心配、そういった心の苦しみを抱えた方々に寄り添う、そういう活動をしております。

遺族会というものが全国に色々な形で存在しております。私は現在、京都の大学の遺族会の方に行って、病気であったり事故であったり自死など、大切な方を亡くされた遺族の方の心に寄り添う活動を行っております。

名古屋では、自死した方々だけの遺族の方を対象に心の支援を行っております。2、3日前も名古屋の方でやって参りました。

その他にも、病気で余命を宣告された方々に対しても、医療機関等々で心の支援を行っております。さらに災害に遭われた方々の所へも、定期的にお伺いまして心の苦しみ等のケアに携わっております。

能登は1月1日大震災がありました。1週間後の1月7日に、まず物資を持って能登の方へお伺いさせていただきました。能登はまだまだ物資が全然足りないときでした。準備をしているときに「避難所には小さな子供さんが見える。だったら子供さんの喜ぶようなお菓子とか、そういうおもちゃも持っていったらどうだ」と言うことで用意させて頂きました。その後、能登の方はだんだんと物資も足りていき、住む所も仮設住宅の方へ住んでいらっしゃいまして、今は仮設住宅の中の一角にあります、公民館のような所へ行って、心の支援というものを行っております。

臨床宗教師は、宗教者ではあるんですけども、倫理として、布教活動や勧誘等の活動は一切禁じられています。ただ本当に心に寄り添うということを目的としてやっております。そんな活動をしている中で、苦しみや悲しみ、後悔や嘆きなど、様々な声を聞かせて頂いております。

遺族の方々は心の中のことを安心して話せる、同じような境遇の人たちの中だからこそ、話しても分かってもらえる。この場所は涙を流して泣いても恥ずかしくない場所なんだ。他では話せないことは、ここでは話して少し救われた思いになると言われます。

東日本大震災の被災地では、、2、30人集まってる所に伺った際に、5歳の男の子を津波で亡くされた女性のお母さんが見えました。その5歳の男の子は、ご遺体が見つかった時はお腹が砂でいっぱいだったそうです。お母さんは毎日、「好きなものでお腹をいっぱいしてあげたい」と好きなお弁当を作り、仏前にお供えして、お母さんは何とか生きるという術を見つけ出していらっしゃる。そんなこともありました。

この支援の主な内容は話を聞くことです。心の内をまず聞く、傾聴ですね。傾聴を大切にしながら、この支援というものに携わっております。

この傾聴する時、私たちが気をつけていることが、いくつかあります。

1つ目は、相手の話をさえぎらないということです。途中で自分の思っていることや意見を、ついつい言いたくなる時がありますが、まず抑えて、まず相手の話をしっかり聞くということ。

2つ目は、相手の話を肯定的に受け止めて、認めながら、そのまま聞くということです。

3つ目は、自分の体験を話さないということです。自分の体験とよく似ていると、ああ、わかるわかる。と、ついつい、相手に同調して発することがありますが、時に大きな不信感を招くときがあります。分かると言う言葉を発する時は慎重に発するようにしております。

寄り添うということについても、大切にしていかなければならないということがあります。

1つ目は、広い視野を持って全体的に物事を把握、理解するようにするということです。自分の考えに囚われず、落ち着いて冷静に全体を把握していくことです。

2つ目には気遣いということです。この人にとって今、どういう言葉が必要なんだろうか、その辺のところをキャッシングしながら寄り添っていくことも私たちに求められてるかと思います。

あと相手の変化に気づくということです。大変難しいことですけれども、相手の人が「私の変化に気づいてくださる、自分をちゃんと気に留めてくださっているんだ」という安心感というものは、その人にとって大きな力になります。

自分が良かれと思ってかけた言葉でも、時に相手を傷つけてしまうことがあります。

私の知り合いの女性が、旦那さんを事故で亡くされました。その女性は旦那さんの事業を受け持つて、一人で一生懸命に旦那様の後を引き継ぎながらやってらっしゃいました。

彼女のことを心配した友達がやってきて「大丈夫?」と声をかけて来たそうです。女性は色々話を聞いてくれて、本当に心が少し楽になったそうです。帰る時、友達が「色々大変だろうけど、頑張ってね」と言って帰ったそうです。彼女は「頑張ってね」の言葉に強い衝撃を受けられたそうです。私は主人が亡くなって、今まで必死になって頑張って来た。これ以上無理と思うほど頑張って来た。なのに「頑張ってね」と言われた。もうこれ以上、何を頑張ればいいのだろうかと心を痛められて、私の方に相談に来られました。

東日本大震災の時、日本中に「頑張れ」とか「頑張ろう」という言葉が溢れていました。

この言葉に対して、被災者の方々からは違和感を覚えるという声が出ておりました。被災者達はもう十分頑張っています。せめて負けるなどか、そっと肩を抱いてくださるとか、頑張るという言葉が私たちをどれだけ傷つけているか考えたことがありますか?というような投書が新聞社に寄せられておりました。「頑張ってね」という言葉が悪いわけではないんです。励ますこと、励ましの声かけが悪いわけではないんです。言葉は大変難しいものです。

臨床宗教師の本部のある東北大学の谷山先生という方がいらっしゃるんですけど、その方が、こうおっしゃって見えます。

「頑張れが一概に悪いとは言えません。誰に言われるか、どんな時に言われるか、その場の状況に合っているか、そういうことがとても重要なのです。」とおっしゃって見えます。谷山先生ご自身、尊敬していらっしゃる先生から、「谷山先生は頑張れ」と言われて、救われたことがあったという風に、おっしゃっておりました。

つまり、この「頑張れ」という言葉1つ、どういう状況で、どういう相手がどう思っているか、状況を把握すること。そのことが大事なんではないか、ということなんです。

一人一人の価値観を否定することなく、理解し、相手の心に近づいていくこと、それが人間関係の構築とも繋がっていくのではないかと思います。異なる立場の人々がお互いに力を合わせ、お互いを認め合い、大切に協力し合っていく、それがこの共に生きていくということへの根柢にあるのではないかと思います。

娘さんを亡くされたお母さんが悲しみのどん底にいました。そのお母さんの所へ、お友達が駆けつけました。そのお友達が「何も言葉をかける言葉がなかった。ただただ、一緒に涙をして帰って来ただけだった」という風におっしゃっていました。

それでいいんだと思います。寄り添うとは、共に生きるということはそういうことではないかと思います。言葉もわからなかったら、言葉を無理に出さなくてもいい、そっと側にいるだけでいい、一緒に涙を流すなら、それでいいと思います。

ロータリークラブさんが理念の1つとして掲げられていらっしゃるように、その場限りの関わりではなく長く関わること、このことは大切という風に掲げられていらっしゃいます。長く関わってもらうことを求めてらっしゃる人はこの社会に多くいらっしゃいます。

人と人が共に生きるということは心を重ね、心を伝え合うということでもあります。そこには必ず優しさや、人の温かみ、ぬくもりというものが必要とされております。その気持ちを今の社会にも、そして次の世代の社会にも人が人を大切に思う気持ち、その心を失うことなく共に生きるという社会が広がり続けていくこと、そのことを心より願いながら、本日の話とさせていただきます。ありがとうございました。

■ニコBOX

ニコBOX委員会 児玉利明君

佐藤備子君 羽部様、本日はありがとうございます。よろしくお願ひします。

寺田澄男君 羽部様、卓話お願いし、ありがとうございます。楽しみにしています。

東田陽博君 今日、金沢は時雨で、虹が出ましたよ。

児玉利明君 先日、美並の「子宝の湯」プレオープンに立ち会いました。リニューアルしましたので、ご利用ください。

旭美香君 羽部玲子様、本日は本当にありがとうございます。楽しみにしております。

(同文)大村太郎君、和田良一君、小島正則君、石徹白秀也君、美谷添里恵子君、畠中知昭君、松森正和君、山口里美君、遠藤正史君、杉山賢君、山越俊英君

■次週行事予定

1月 7日 新年互礼会
1月 14日 休会

■出席報告

出席委員会 和田良一君

回数	会員数	出席者	休会者	補正	出席率
2217回	30名	18名	1名	6名	62.09%
2218回	30名	17名	1名	2名	65.52%